

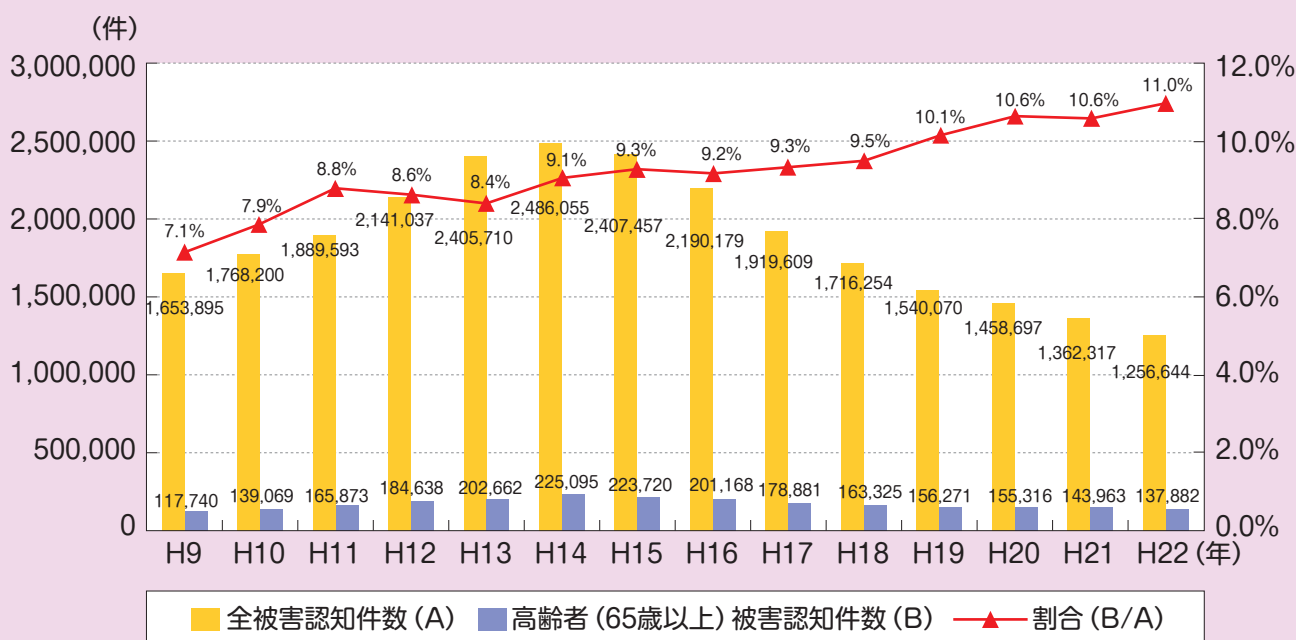
# はじめに

県内の刑法犯認知件数は、平成 15 年の 28,973 件をピークに減少傾向にあります。依然として高水準で推移しており、平成 23 年は 14,045 件となっています。社会の高齢化が進む中、オレオレ詐欺や悪質商法など特に高齢者をねらった事件も多発しており、また、新たな手口も次々と生まれています。

平成 22 年の犯罪情勢をみると、全国で 65 歳以上の高齢者が被害に遭った件数は平成 9 年 (117,740 件) から増え続けていたものの、平成 14 年をピークに減少に転じ、平成 22 年には 137,882 件まで減少しています。しかしながら、平成 9 年と比較すると件数で 1.2 倍となり、また、全刑法犯に占める高齢者の犯罪被害の割合は 7.1% から 11.2% へ上昇しています。統計上からも高齢者が集中的にねらわれていると言えます。また、平成 23 年版「警察白書」によると、振り込み詐欺のうち、いわゆるオレオレ詐欺の平成 22 年の認知件数は 4,418 件で、60 歳以上の者が各々 9 割以上を占め、大部分の被害者が高齢者となっています。

この防犯ハンドブックは、高齢者の方々が日々の生活の中で遭遇しやすい犯罪被害を想定し、その対策を考えたものです。防犯の視点から高齢者自身の行動や生活を見直すきっかけにしたい。ただくとともに、離れて暮らす高齢の親を持つ方々には、親の安全対策を考える手がかりにしたい。いただければ幸いです。

## 刑法犯被害認知件数



資料：警察庁「犯罪情勢」